

検定試験結果からみた情報教育に対する一考案

On The Results of License Examination

菊地 紀子

Noriko Kikuchi

1. はじめに

情報教育を導入した昭和60年度当初から、ワープロ検定については設備の面や検定会場としての認定など、様々な要因について検討を行ってきた。平成3年度、4年度授業前後に行った調査によると、ワープロ検定を受けてみたい学生は、8割を越えることがわかった。これにより週1回の授業時間だけでは補えない時間数を考慮し、都市企画協に依頼して、ワープロ検定3級合格を目的としたゼミを行った。前報（紀要No.8）の「情報教育における学生の意識調査」によって得た結論の一つとして、レベル別のクラス編成による授業の導入をあげた。今回の結果をもとに今後どのような授業体制をとるべきか、さらに検討を行うことにした。本ゼミは以下の概要により希望者を対象として行われたものである。

目的)

平成4年度第16回日本語文書処理技能検定試験
3級（日本商工会議所主催）合格

期間)

平成4年10/12～12/5 全66時間
月水金コース20回 火木土コース22回

内容)

タッチタイピング入力練習10時間
3級出題区分表機能の復習6時間
検定模擬問題履修44時間
検定模擬試験6時間
筆記試験対策

2. ワープロ検定3級受験者

検定を受けた学生は次の138名である。

- ①ゼミ+前・後期授業受講者97名
- ②ゼミ+後期授業受講者2名
- ③前・後期授業受講者39名

3. 検定方法

平成4年度第16回日本語文書処理技能検定試験3級は、12月6日に日本商工会議所の施工手順に従い本校において行い、採点は東京商工会議所が行った。試験内容は表1に合格基準は表2に示すとおりである。

表1 試験内容

実 技	入 力	10分	入力能力の正確性を判定しうる文章で本検定の趣旨に合致する400字現代文漢字含有率25～35%
	文作・技巧	20分	メモ書き原稿等から簡単なビジネス文書等を作成。訂正、挿入、削除等の文書処理。表、名簿、契約書、規則等の作成。
筆 記	文章判読	15分	文章表現、漢字及び送りがな・かなづかいの誤りの訂正、脱字の補填、同音異義語の選択を問う国語力を判定できる文章で本検定の趣旨に合致する現代文
	技術常識		文書処理に関する知識及びワープロに関する基礎的な実務知識。出題形式は客観的な判定が可能な方式。

表2 合格基準

実	入 力	正答文字数390字／400字以上
技	文作・技巧	70点／100点以上
筆	文章判読	70点／100点以上
記	技術常識	70点／100点以上
4科目すべて合格基準点に達していなければならない		

表3-1 ゼミ受講者中の合格者

受験者数	合格者数	(%)
99	49	(49.5)

表3-2 合格・不合格者別入力数

前期試験入力数	200文字以上	200文字未満 (不明含む)
合格者数 (%)	34 (69.4)	15 (30.6)
不合格者数 (%)	22 (44.0)	28 (56.0)

4. 結果及び考察

ゼミを受講していた学生の合格率を表3-1に示した。

前期入力目標数200文字以上であるため、合格者及び不合格者を各々前期試験入力数200文字以上と200文字未満に分けて検討した結果を表3-2に示した。合格者のうち7割強の者が200文字以上である。しかし、3割強の者は200文字未満でも合格している。前期に授業がなく1度もキーボードに触ったことのない者(判定E')でも、その後の練習によって合格している。反対に300文字以上でも不合格の者もいる。これらの者について検討してみると、筆記科目である「技術常識」1科目で不合格になっていたり、15回も欠席している。以上のことから、前期試験の入力数に関係なく、合格に対する意欲によって合否が決まったのではないかと推察される。

参考までにゼミを受講していた学生の合格者及び不合格者を表3-3、表3-4に示した。

合格者及び不合格者のゼミ初回に行ったワープロ検定4級実力試験判定について検討した結果を表3-5に示した。合格者のうち半数強の者は合格可能と判定されている。しかし、半数弱の者は合格不可能と判定されたにもかかわらず、合格している。不合格者のうち、3割強の者は合格可能と判定されたにもかかわらず、不合格となっている。この原因には出席率も関係していると考えられるので、次に出席率について検討した。

表3-3 セミ受講学生合格者

前期 入力数	前期総 合成績	セミ初回4級実力試験			文作含 判定	欠席回数 ／総回数	日商3級検定試験			
		判 読	常 識	入力数			判 読	常 識	入力数	文 作
400	100	90	85	304	B	1回／20回	95	80	400	88
400	96	95	80	303	A	1回／20回	100	100	400	98
400	100	90	90	—	A	9回／20回	95	90	400	98
399	97	95	55	303	B	0回／20回	90	85	400	100
387	97	85	75	304	B	6回／20回	100	90	400	98
361	96	80	55	297	C	0回／22回	85	90	400	96
353	100	90	45	241	D	1回／22回	80	95	400	85
340	100	90	80	292	C	2回／22回	95	80	400	92
336	100	85	50	304	C	2回／22回	95	85	400	100
327	100	85	70	243	A	2回／20回	95	95	400	86
327	100	70	65	263	D	2回／22回	95	85	399	95
317	98	55	60	278	B	3回／22回	95	90	399	100
312	96	—	—	—	—	6回／20回	90	75	400	88
303	98	70	65	267	B	2回／20回	90	95	399	98
283	100	65	50	230	C	1回／20回	85	85	400	90
281	97	65	85	277	C	1回／20回	90	75	399	100
281	98	75	90	230	D	1回／22回	100	90	400	100
280	100	85	90	228	B	1回／22回	95	70	400	100
274	96	85	55	241	B	6回／22回	90	85	399	90
270	99	90	65	242	D	0回／20回	95	75	400	100
259	89	75	50	228	C	1回／20回	95	75	400	100
259	98	85	90	233	A	0回／22回	100	100	398	95
252	92	95	65	236	C	0回／20回	100	80	395	94
252	96	75	75	235	B	0回／20回	100	75	400	100
240	100	90	65	226	C	3回／22回	85	80	400	100
238	96	65	60	227	B	1回／20回	95	100	400	98
234	98	100	85	231	D	6回／22回	90	70	400	100
229	96	85	35	237	D	6回／22回	90	90	399	95
216	57	85	80	237	C	3回／20回	90	100	398	100
216	100	70	55	—	D	0回／20回	95	75	398	88
216	98	85	85	241	D	2回／22回	90	75	398	94
214	96	85	55	222	D	4回／22回	100	75	399	100
211	100	95	60	216	D	2回／20回	95	85	400	100
207	100	60	85	206	D	1回／22回	85	85	400	95
203	97	80	80	198	B	1回／20回	90	80	399	88
203	97	—	—	—	—	2回／22回	95	95	400	100
200	99	90	65	246	A	0回／20回	95	85	392	100
199	100	70	45	203	D	3回／22回	90	75	400	100
199	100	85	70	233	D	1回／22回	100	80	397	100
197	93	90	60	225	D	2回／22回	100	85	395	100
195	84	100	65	225	E	3回／22回	100	75	400	100
190	98	95	75	200	D	4回／22回	100	85	400	100
190	99	95	95	231	C	1回／20回	95	100	400	92
187	90	75	70	166	D	4回／22回	100	90	399	98
179	96	45	60	241	B	6回／22回	95	70	399	85
172	66	—	—	—	—	6回／20回	95	80	400	74
172	86	60	65	150	E	2回／22回	95	70	400	93
171	90	70	85	196	D	2回／22回	100	70	394	96
—	—	85	40	65	E'	1回／22回	95	95	400	100

表3-4 ゼミ受講学生不合格者

前期 入力数	前期総 合成績	ゼミ初回4級実力試験			文作含 判定	欠席回数 ／総回数	日商3級検定試験			
		判 読	常 識	入力数			判 読	常 識	入力数	文 作
400	96	75	60	303	A	5回／22回	100	50	400	83
362	96	60	90	302	B	3回／20回	75	60	399	100
309	100	90	45	290	A	15回／22回	85	85	361	50
292	97	80	70	302	A	5回／22回	80	65	400	100
289	98	80	60	101	E	2回／20回	90	70	386	94
287	100	—	—	—	—	4回／22回	95	75	364	95
273	95	65	75	226	C	10回／20回	95	70	399	63
270	100	90	50	231	B	1回／20回	95	65	398	95
265	93	55	55	240	C	4回／20回	75	95	379	90
244	97	75	40	159	B	2回／20回	95	75	386	98
231	86	80	65	182	D	5回／20回	95	70	363	67
224	100	85	80	178	D	0回／22回	90	90	372	100
216	96	85	45	194	C	10回／22回	85	80	311	71
216	96	90	65	194	D	0回／22回	85	60	399	100
215	100	65	65	194	E	0回／20回	90	100	360	78
215	100	95	85	151	D	0回／22回	85	80	322	85
211	100	100	65	221	B	1回／22回	95	75	382	92
209	97	85	55	197	D	13回／22回	100	50	308	17
209	97	—	—	—	—	5回／22回	100	65	400	100
206	88	55	70	157	E	1回／20回	75	45	386	72
205	100	75	65	183	D	3回／22回	85	70	335	94
202	85	70	50	170	D	3回／20回	95	80	345	55
202	89	75	50	167	E	2回／22回	90	70	379	95
200	97	75	40	185	D	1回／20回	80	85	375	60
200	90	85	80	233	D	0回／20回	90	75	399	59
197	95	65	45	167	D	3回／20回	90	65	322	75
197	99	80	50	201	C	9回／22回	100	75	376	84
196	97	85	55	200	B	6回／20回	95	60	400	62
196	99	85	60	192	E	4回／20回	95	80	357	42
196	91	80	75	293	C	0回／22回	100	60	400	95
195	91	—	—	—	—	3回／20回	95	75	307	64
194	98	65	70	210	D	1回／20回	90	80	366	90
192	90	75	40	165	D	1回／20回	75	80	335	88
190	80	—	—	—	—	6回／20回	100	85	348	95
190	96	90	75	167	D	5回／22回	100	40	330	63
190	93	75	80	170	E	2回／20回	90	80	326	78
189	94	95	80	164	D	11回／22回	90	70	225	17
187	97	95	70	167	C	1回／20回	95	75	400	49
183	91	85	65	187	E	4回／20回	100	90	306	47
183	97	85	65	109	E	0回／22回	80	80	385	50
183	94	65	65	168	E	5回／22回	95	100	337	100
181	65	85	70	195	D	4回／20回	100	80	395	50
180	86	85	65	224	B	0回／20回	95	85	398	68
174	92	50	25	145	D	1回／22回	80	50	358	68
172	94	90	65	169	D	1回／20回	95	90	304	85
168	90	—	—	—	—	2回／20回	90	65	400	98
168	89	—	—	—	—	5回／20回	90	95	295	50
166	80	—	—	—	—	7回／20回	80	80	320	40
161	51	75	80	204	C	0回／20回	85	70	387	100
—	—	85	60	67	E'	1回／22回	100	80	305	55

表3-5 合格・不合格者別4級実力試験判定

判定	A	B	C	D	E	E'	未判定
合格者数 (%)	5 (10.2)	11 (22.5)	10 (20.4)	17 (34.7)	2 (4.1)	1 (2.0)	3 (6.1)
不合格者数 (%)	3 (6.0)	6 (12.0)	7 (14.0)	17 (34.0)	9 (18.0)	1 (2.0)	7 (14.0)

判定(都市企画㈱による)

A	合格可能
B	ほとんど合格可能
C	やや合格可能
D	やや合格不可能
E	ほとんど合格不可能
E'	合格不可能

表3-6 合格・不合格者別欠席回数

欠席回数	0~2	3~5	6~9	10以上
合格者数 (%)	33 (67.4)	8 (16.3)	8 (16.3)	0 (0.0)
不合格者数 (%)	24 (48.0)	17 (34.0)	4 (8.0)	5 (10.0)

表3-7 ゼミ受講者中の科目別不合格者

科目	判読	常識	入力	文作	合計
1科目人数 (%)	0 (0.0)	8 (16.0)	19 (38.0)	5 (10.0)	32 (64.0)

合格者及び不合格者の欠席回数について検討した結果を表3-6に示した。合格者の出席率は高く、ゼミ初回に行ったワープロ検定4級実力試験判定で、合格不可能と判定されたにもかかわらず合格した半数弱の者は、7割以上の出席率をあげている。逆に合格可能と判定されたにもかかわらず、不合格となった3割強の者のうち、1/4が4割以上欠席している。以上のことから合格に対する意欲は出席率に関係していることが推察された。

1科目だけが不合格のために検定に合格しなかった者について検討した結果を表3-7に示した。「技術常識」「入力」「文作・技巧」のいずれか1科目だけのために不合格になった者は、不合格者全体の6割強に上る。「技術常識」1科目のために不合格になった者は、筆記試験対策指導があったにもかかわらず不合格になっている。これは、筆記試験を甘く考えていたための勉強不足によるのではないかと推察される。「入力」1科目のために不合格になった者は、入力数300文字以上である。「文作・技巧」科目が不合格になっていないことを考えると、ケアレスミスあるいは試験の緊張のた

め普段の実力が発揮できなかったのではないかと推察される。「文作・技巧」1科目のために不合格になった者は、入力数は395文字以上であるため、入力が遅いために文作・技巧問題が時間内に出来上がらなかったとは考えにくい。よって、ビジネス文書作成である文作・技巧問題の趣旨をよくくみ取れなかったのではないかと推察される。

ゼミを受講していなくて検定を受験した学生の合格率を表4-1に示した。合格者は前期試験入力数250文字以上である。この結果から前期入力目標数200文字以上であるが、これはキーボードにまったく触ったことのない学生の努力目標である。よって、検定合格に対する意欲があり、入力も速い学生には授業だけで検定合格を可能にできるような指導を行っていきたいと考える。

不合格者のうち、「技術常識」「入力」「文作・技巧」のいずれか1科目だけで不合格になった者について検討した結果を表4-2に示した。「入力」1科目のために不合格になった者の入力数は、300文字以上であり、「文作・技巧」1科目のために不合格になった者の入力数は397文字である。これらの者は先に述べたゼミ受講者の不合格者と同じ理由に

より、不合格になったのではないかと推察される。不合格者のうち、検定入力試験で入力数300文字以上の者が、不合格者全体の7割である。この結果から、入力スピードより文作・技巧問題の趣旨を理解させることや、筆記科目を侮らず勉強することが大事であることを認識させるような指導を行っていきたいと考える。

参考までにゼミを受講していなくて検定を受験した学生の合格者及び不合格者を表4-3、表4-4に示した。

表4-1 前・後期授業受講者中の合格者

受験者数	合格者数 (%)
39	9 (23.1)

表4-2 前・後期授業受講者中の科目別不合格者

科目	判読	常識	入力	文作	合計
1科目人数 (%)	0 (0.0)	4 (13.3)	2 (6.7)	1 (3.3)	7 (23.3)

表4-3 前・後期授業受講学生合格者

前期 入力数	前期総 合成績	日商3級検定試験			
		判読	常識	入力数	文作
399	96	95	80	400	100
395	100	90	70	397	82
392	100	85	75	393	98
337	99	90	100	400	94
327	100	90	90	396	92
325	100	100	70	391	90
322	98	85	90	398	71
259	98	100	75	400	82
250	100	80	75	399	98

表4-4 前・後期授業受講学生不合格者

前期 入力数	前期総 合成績	日商3級検定試験			
		判読	常識	入力数	文作
400	87	75	70	397	58
396	94	90	50	400	90
381	100	95	65	400	68
370	93	90	65	204	38
332	96	95	55	388	38
325	97	90	65	362	50
312	98	95	60	398	58
276	98	90	65	394	94
272	100	95	60	341	42
266	100	85	60	400	89
260	100	90	55	399	86
243	99	95	70	381	48
238	100	95	75	326	84
238	97	95	95	316	35
231	96	90	55	327	43
229	100	90	25	292	50
227	100	70	45	313	49
217	100	95	45	306	45
216	100	90	75	287	48
213	100	80	45	326	60
197	99	85	80	273	28
196	92	85	60	285	50
191	95	80	75	164	30
189	90	75	75	362	49
184	97	75	65	264	41
180	92	85	55	256	26
180	94	90	70	386	42
176	95	90	75	380	45
158	88	70	70	230	34
—	—	95	75	367	91

5. あとがき

今回の結果から、日商ワープロ検定3級合格のためには、1度もキーボードに触ったことのない学生には、後期の授業時間+ゼミの時間数が必要であるが、前期から授業を受けていて入力数250文字以上の学生には、後期の授業時間数だけでも合格は可能であることが示唆された。どんなに入力が速くても合格に対する意欲に欠け、「筆記」の勉強を怠ると4科目すべて合格基準点に達していなければならないという条件のため、不合格になっている。反対に1度もキーボードに触ったことのない学生でも、高い出席率により合格している。よって、学生自身の目的意識、意欲が大事であることが推察された。

前報（紀要No.8）の「情報教育における学生の意識調査」によって得た結論の1つとして、レベル別のクラス編成による授業の導入をあげた。今後レベル別クラス編成を導入する時には、何を基準にレベルを分けるかという問題も出てくるが、今回の結果と考え併せ、単に入力スピードが速い

か遅いかということだけでクラス編成をするのは早急すぎることを示唆された。ほとんどが事務職で就職する以上、社会に出てからOA機器の操作等は必要不可欠である。意欲のない学生には、コンピュータアレルギーをおこさせないような、又意欲のある学生には検定合格を目的とさせるなど、学生の目的意識を啓発し、より有効な指導が行えるようにしたいと考える。よって、今後クラス編成を考える時には、検定合格を目的としたクラスや、OA機器の操作を身につけることを目的としたクラスなど、目的別クラス編成というのも一案ではないかと考える。

終わりに、本文寄稿にあたり絶大なるご教示をいただきました増淵久子先生、品川弘子先生、黒田圭一先生をはじめ諸先生方に深謝申し上げます。又、資料を提供していただきました都市企画 榎並びに資料集計にご協力いただきました本学市川敬子さん、栗原美和さん、渡辺久子さんに深謝申し上げます。